

復活!!! 国際交流CAFÉ

令和5年度第2回
KENDAIキャンパスミーティング

令和6年2月8日(木)、
令和5年度第2回
県大キャンパスミーティングを
開催しました。

今回は「復活!!!国際交流CAFÉ」と題し、「国際交流」に興味のある学生を対象として開催しました。

当日は、システム科学技術学部3名、生物資源科学部4名の学生が参加し、進学したきっかけや今までに取り組んだ国際交流、今後やってみたいことなど和気あいあいとお話いただきました。

◎学生…自分は学会発表の為、ラスベガスに行きました。海外の学会と日本の学会は大分雰囲気の違いがありました。日本ではスーツが一般的ですが、海外では12月のアメリカで寒いはずなのに、半袖短パンの人がいて、文化の違いを感じました。初めてネイティブの外国人に英語でプレゼンをしたので、イラストや写真、グラフを多く活用して、だれが聞いても伝わるように工夫しました。

色々な規制が厳しいと聞くけどどうだったかな？

シンガポールで
おもしろかったことは？

規制というより、うまい具合に
救済されているという感じで
人工都市、人がつくった町と
言われているのが良かった。

現地で1人行動の際に購入した衣装で、
着て歩いたら色んな人からすごく
話しかけられた。現地の人はずっと、
フランクに話しかけてくれた。

グループで行く時は違い、ひとりで行くからこそ出発前の準備・計画が大事だと感じた。英語が話せなくても何とかできるが、慣れは大事。今、研究室で配られているPCを全部英語設定にしている。日本語で使っている時とボタンの内容が一緒なので、使っているうちに覚えていくことができる。

国際交流活動エピソード

◎学生…私は何かに特化するのではなく、いろいろなものに興味をもつタイプです。ハブになれるような総合的な勉強をしたいと思っていましたところ、高校の先生に紹介してもらって経営学科への進学を決めました。海外交流もしており、大学が柔軟に情報を提示してくれると聞いたことも理由のひとつです。

— 本学を希望したきっかけ？

◎学生…初めての海外は、中2〜中3の頃でカナダ・ビクトリアにホームステイし、ミドルスクールに通いかけた。自分でどうにかしなければいけなかったという緊張感で、10日間で英語レベルが変わった、という実感がありました。実際に相手に自分のわかる言葉の中で表現し英語が社会で通用する英語だなと思いました。今回、また海外に行き、日常生活で外国人の方が困っていたら助けられたり、今後社会で海外と日本をつなげるような役割につきたいと考え、シンガポールへ参加しました。

語学研修への要望

◎学長…若いころから海外に出て、日本との違いを実感することは非常に大事だと考えている。大学としてそういう場を提供したい。何かアイデアはない？

◎学生…海外へ行く時に学校からもらえる給付金のことですが、自己負担がまだ高いと思いました。学生が自分で稼いでいくには足りず、親からお金を出してもらうようになってしまいました。次からは自分のお金で行くように言われていて、生活できなくなってしまうので、あるプログラムに参加するのではなく、プログラムを作って応募し、助成金をもらえる企画があると嬉しいです。大学版トビタテみたいな。例えば海外で大学のPRをしてくる。など、そんな企画があったら面白いと思いました。

◎学長／副学長…制度は作らないが提案してもらえたら考える。本当に成長できそうな計画ならサポートしようと思う。東大には1年休んで、その間何らかの活動をするという計画にお金をサポートするようなプログラムがある。例えば市役所の職員として働いてみるとか、海外を回ってやりたいこと探しの活動を推奨していきたい。あまり自己規制せずに、色々試してみたい。今あまり使われていないが、オフイスアワーというものがあるので利用してほしい。

本日のお菓子
カナダの定番お土産
B&B メーブルクッキー
ミツハチとてんと虫がモチーフの
チョコレート
ボンシャベリー-ショコラ



今後も様々なキャンパスミーティングを企画予定です。
今回参加できなかった方は、次回ぜひ参加してください！